

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 朝霞市立朝霞第二中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

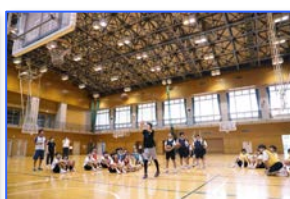
まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実 施 内 容

■期日：2019年6月6日（木）7日（金）

■クラス：2年1組（39名）、2年5組（39名）、2年6組（39名）

■オリンピアン：田中 琴乃 先生（体操／新体操）【出場オリンピック／北京大会、ロンドン大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限、3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・リボンのデモンストレーションを見せ、競技について紹介。今日は3つのオリンピックバリュー（エクセレンス：全力で取り組む、フレンドシップ：仲間・協力、リスペクト：ルールを守る、相手を尊敬する）を意識して取り組んでほしいと伝える。
・準備体操としてストレッチ、ボール取りゲームを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・手つなぎだるまさんが転んだを実施。全員で手を繋ぎ横1列になった状態で並び、田中先生の手からボールが離れている間のみ動くことができ、全員がゴールラインを越えられるかにチャレンジ。

4. まとめ



・運動の時間を振り返り、楽しい時間の中で全力で、協力して、ルールを守って取り組んでくれた。最初はできなかったことも達成できたように、目標に向かって努力することは大事であり、運動の時間に皆もオリンピックバリューを実践できていたと伝える。
・次の座学の時間は教室で田中先生の経験を通してオリンピックバリューについて話すので、質問があったらどんどん聞いてほしいと話し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限、4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・新体操競技の映像を見せ、ルールや特徴を紹介。
- ・田中先生にとってのオリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越」「ベストを尽くす」「全力で取り組む」「一生懸命頑張る」「諦めない」「努力する」「昨日の自分に負けない」、フレンドシップ「友情」「お互いを理解する」「協力」「チームワーク」「仲間」「思いやり」、リスペクト「敬意/尊重」「ルールを守る」「フェアプレー」「感謝」と伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：クラスをよりよくするために何ができるか、何が必要かをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「オール5を取るために授業を全力で受ける」「目標に向かって全力で取り組む」「何事も諦めない」「活気をつける」(エクセレンス)
 「お互いを理解して協力しあう」「一人ひとりがクラスの一員としての自覚を持つ」「思いやりを持つ」「人のために動く」(フレンドシップ)
 「感謝の気持ちを忘れない」「クラス全員で支えあう」「感謝の気持ちを積極的に伝える」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。自分に大切なものは何か、どのような人に支えられているかを考え、オリンピック教室で学んだことを今日から行動に移してほしいと伝える。
- ・東京2020大会について触れ、たくさんの人の応援が選手の力になるので、選手や大会を支える人達に力を送ってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：2019年6月6日（木）

■ク ラ ス：2年2組（39名）、2年3組（39名）

■オリンピアン：鶴岡 剣太郎 先生（スキー／スノーボード）【出場オリンピック／トリノ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・鶴岡先生から今日の目標として「オリンピックとはどのようなものなのかを探ってみよう」、「今より向上できるものを見つけよう」と伝え、運動の時間では、「全力で一生涯懸命取り組むこと」、「クラスの仲間と協力して取り組むこと」、「ルールを守ること」の3つを約束し、貴重な時間を無駄にしないように時間を守り、メリハリのある行動で取り組もうと伝えて、準備体操に移る。
- ・ウォーミングアップの後、じゃんけん勝ち抜けやボールを使ったミニゲームを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・2班ずつ3チームに分かれて8の字跳びを実施(90秒間×3回)。各回終了後に作戦タイムを設け、どうしたら今回の記録を更新できるのか考え、目標回数を設定してから挑戦。

4. まとめ



- ・運動の時間の取り組みがオリンピックバリューにどのようにつながっていくのか、感じ方はそれぞれ違うけれど、鶴岡先生が大切だと感じたことを次の座学の授業で伝えるので、運動の時間の取り組みを1人1人頭に入れて次の授業に臨んでほしいと伝えて、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・「協力すること」「今より向上すること」「マイナスをプラスに変えること」の大切さを皆で考えようと伝え、トリノ大会の映像を見せながら競技紹介。
- ・鶴岡先生にとってのオリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越」「美点」「挑戦」、フレンドシップ「友情」「やる気になる一言」、リスペクト「敬意／尊重」「周りのサインに気を配る」と伝える。

3. グループワーク



- 発問：今の自分が向上するために何が大切だと感じたか、オリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：「何事も真剣に取り組む」「集中する」「挑戦する」「全員が一生懸命に取り組む」「良い点を探す」(エクセレンス)
「仲間と助け合い話し合う」「思いやりを持つこと」「良い声かけ」(フレンドシップ)
「相手の立場になり意見を尊重すること」「ライバルでも応援する」「自分に厳しく、人に優しく」「ルールを守る」「感謝する」(リスペクト)

4. まとめ



- ・「全力を尽くすこと」「チームで協力し合うこと」「ルールを守ること」が目標を達成するための3か条であり、運動の時間にもこれらを体現できていた。
- ・皆はこれから最高学年になり、部活等で後輩を引っ張る立場になると思うが、オリンピックバリューや目標を達成するための3か条を実行し、より良い姿を目指してなりたい自分に近づいてほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：2019年6月7日（金）

■ク ラ ス：2年4組（39名）

■オリンピアン：太田 陽子 先生（陸上競技）【出場オリンピック／シドニー大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・太田先生から、運動の時間では「エクセレンス＝一生懸命頑張る、全力で取り組む」、「フレンドシップ＝協力する」、「リスペクト＝ルールを守る」ことを意識して取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。
- ・準備体操とストレッチの後、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・6班に分かれて、立ち幅跳びを全3回実施。最初に太田先生から立幅跳のポイントを伝え、班に分かれて練習。
- ・太田先生からルールを守って、協力し、全力で取り組んでいたと伝える。



4. まとめ



- ・授業冒頭に伝えた3つのことを意識して取り組めたか確認。
- ・次の座学の時間では、3つのオリンピックバリュー「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」について詳しく説明すると予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら競技ルールやライバル選手について紹介。
- ・太田先生にとってのオリンピックバリューについて、エクセレンス「卓越」「ベストを尽くす」「一生懸命頑張る」「全力で取り組む」「諦めない」「平常心」、フレンドシップ「友情」「協力」「ライバルと共に」、リスペクト「敬意／尊重」「ルールを守る」「お互いを理解する」「受け入れる」「フェアプレー」と伝える。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：日常生活の中にあるオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 発表：「全力で取り組む」「毎日一生懸命練習に取り組むことで結果がよくなっても後悔しない」（エクセレンス）「お互いに協力する」「1人ではできないことを全員で取り組む」（フレンドシップ）「できなくても責めない」「お互いを尊重する」「ルールやマナーを守る」（リスペクト）

4. まとめ



- ・オリンピックの中には目標にすぐたどり着けた選手もいるが、遠回りしてきた選手も多く、太田先生も遠回りしてきた。目標に向かって努力することは大切だが、すぐに結果がでない時もある。諦めずに続ければ道は必ず切り開けるので、今後もオリンピックバリューを意識し、勉強や部活に全力で取り組んでほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真
2年1組



2年2組



■ 集合写真
2年3組



2年4組



■ 集合写真
2年5組



2年6組



■ 記念品贈呈

2年1組



2年2組



2年3組



2年4組



2年5組



2年6組



■ 修了証贈呈

